

▼INDEX▼

■【内部監査情報】
・令和4年度内部監査報告書（働き方改革関連法への対応に関する監査、競争的研究費及び標準会計監査、フォローアップ監査）について
・会計監査人の選任手続きについて
■【監査ニュース】
・SBI 大学院大元教授が論文盗用 【3/2 毎日新聞】 外 14 件
■【お知らせ】
・人事異動について
■【Audit Cafe】
・あの日、あの時、この場所で

表題写真：みちのく杜の湖畔公園のチューリップ

内 部 監 査 情 報

・令和４年度内部監査報告書（働き方改革関連法への対応に関する監査、競争的研究費及び標準会計監査、フォローアップ監査）について

令和４年度内部監査基本計画書に基づき行いました、「働き方改革関連法への対応に関する監査」、「競争的研究費及び標準会計監査」、「フォローアップ監査」の内部監査報告書については、令和５年４月１１日の経営企画会議、令和５年４月１８日の部局長連絡会議、令和５年４月２１日の事務連絡会議において報告しております（令和５年４月２１日の事務連絡会議でも報告予定です）。

併せて、監査室の HP にも監査報告書を掲載しましたので、監査対象ではなかった部局におかれましてもお目通しいただき、指摘事項と同様の事例がないか、自部局にも取り入れることで改善が見込める取り組み事例がないか等ご確認いただき、業務の適正な遂行、効率化にご活用ください。

【内部監査計画・報告】の詳細は、コチラ↓

http://www.bureau.tohoku.ac.jp/audit/2-2index.html





会計監査人の選任手続きについて

毎年、4月になると会計監査人の選任手続きを行います。「会計監査人って毎年選任するの？」「大学と監査法人で複数年契約している訳ではないの？」などと疑問に思った方もいるかもしれません。

今回は、あまり知られていない会計監査人の選任手続きについて、ご紹介します。

会計監査人の選任手続きとは･･･？

国立大学法人における会計監査人は、国立大学法人法第 35 条において準用する独立行政法人通則法（以下「準用通則法」という。）第 40 条により、**文部科学大臣が選任する**こととされています。

そして、準用通則法第 42 条により、**会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度についての財務諸表承認日まで**とされていることから、毎年文部科学省へ会計監査人候補者名簿を提出し、選任してもらうことになります。

〇独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三号）（抄）
【国立大学法人法第 35 条による読み替え後】

（会計監査人の選任）
第四十条　会計監査人は、文部科学大臣が選任する。

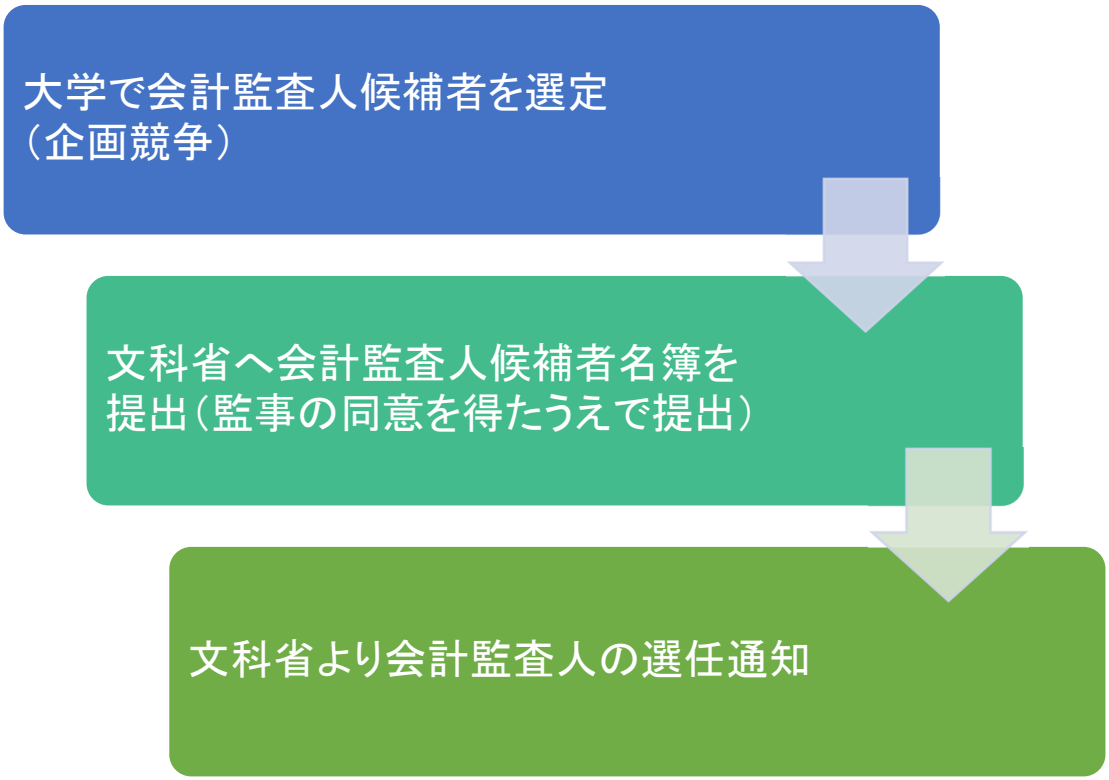
（会計監査人の任期）
第四十二条　会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度についての財務諸表承認日（国立大学法人法第三十五条において準用する第三十八条第一項の規定による同項の財務諸表の承認の日をいう。）までとする。

会計監査人候補者選定上の留意点

❖会計監査人の選定にあたっては、最低価格落札方式ではなく、企画競争・公募等により、選定の公平性、透明性を確保しつつも、複雑化する会計環境においても、監査の質が確保されるよう、中長期的な視点で選定する必要があります。
→本学では R4～9 年度（6 年間）にかかる選定を企画競争で行い、第 1 候補者を有限責任監査法人トーマツと決定しています。

❖会計監査人の独立性を確保する観点から、連続する 6 事業年度において会計監査における監査責任者となった者が、その後、会計監査人の独立性及び監査の品質確保の観点から適当と認められる期間は、当該国立大学法人の会計監査における監査責任者となることがないようにしなければなりません。
→本学の会計監査人は H28 年度より有限責任監査法人トーマツが連続して選任されていますが、H28～R3 年度（6 年間）の監査責任者は R4 年度以降の監査責任者とはなっていません。

会計監査人候補者選任の流れ



このようにして、毎年会計監査人の選任が行われ、文部科学大臣より選任された会計監査人によって会計監査人監査が行われています。今年度の期中監査は無事に終了し、これから 6 月にかけて期末監査（決算監査）が行われる予定ですので、会計監査人より資料の提出依頼等がございましたら、ご協力の程よろしくお願いいたします。





監 査 ニ ュ ー ス

・SBI 大学院大元教授が論文盗用 【3/2 毎日新聞】
・福島大入試問題2年連続でミス 合否影響なし 【3/4 河北新報】
・入試で採点ミス 不合格5人救済 富山大、昨年実施 【3/7 毎日新聞】
・山形大排水枡から水銀 基準の6倍 大学公表せず 【3/7 河北新報】
・遺伝子組み換え「光るメダカ」飼育容疑 東工大から 09 年持ち出し 愛好家取引 【3/9 朝日新聞】
・1100 万円分不適切購入 山形大、文科省に返還へ 【3/10 河北新報】
・東大元特任教授がアカハラ 【3/10 朝日新聞】
・東北大に撤回求める声 六角牧場風力 土地貸し付け巡り 【3/14 河北新報】
・東京農工大が出題ミス 【3/16 読売新聞】
・一気飲み死 近大和解 【3/20 朝日新聞】
・私学助成金 2980 億円 日大は 2 年連続不交付 【3/23 産経新聞】

・岡山大教授　論文に捏造　113か所　大学側「類を見ない悪質さ」　【3/25　読売新聞】
・研究不正、遠い根絶への道　福井大教授、査読「自作自演」【3/30　河北新報】
・山形大男性教員　不当な扱い疑い　職員組合が発表　【3/30　河北新報】
・学長パワハラを認定　【3/30　河北新報】

お 知 ら せ

・人事異動について

令和5年4月1日付けの人事異動の発令がありました。監査室に関係するものとしては、次のとおりです。

監査室長	新　沼　　要	（旧職名：病院研究推進室長）
監査スタッフ（主任）	國　分　恵　美	（旧職名：工学部・工学研究科人間・環境系事務室総務担当主任）

石　垣　　忠	監査室長	⇒	生命科学研究科事務長
武　田　奈　緒	監査室監査スタッフ（係員）	⇒	国立大学協会（人事交流）

新体制となった監査室を、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

Audit Cafe

毎月、監査室のスタッフが交代で「つぶやく」このコーナー！
今回のつぶやきは、「あの日、あの時、この場所で」と言うお題のようです。
いったいどんな話になることやら・・・。

4月1日付けで監査室に異動になりました、Nです。よろしくお願いします。



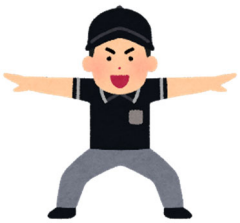
いよいよ新年度がはじまりましたが、今年の 3 月はWBCで盛り上がったことは記憶に新しいと思います。私もその一人で地元出身県から 2 人も侍メンバーに選出されていたこともあり、なおさら今回のWBCを注目していました。結果的に、優勝というサイコーな結果で終わり、野球に対してもともと興味のあった人、野球が大好きな人、野球が人生そのものである人、今回を契機に野球に興味をもった人などを中心に日本全国で盛り上がったということは、野球ファンの一人として嬉しい限りでした。特に、小学生に対するインタビューの回答で、「これから野球をやってみたい」という声をテレビで目にすることもあり、自分自身が野球小僧だった頃と同様、野球の普遍的な魅力について令和の時代でも多少なりとも受け入れられていることに安堵したところでした。



さて、侍ジャパンが活躍した要因として、大リーガーをはじめとした選手の活躍はもちろんですが、栗山監督のリーダーシップ、まとめる力、が注目されており、サッカーの森保監督と並んで栗山監督は令和における理想の上司の代表格になったのではないでしょうか。今回はその“理想”の上司像ではなく、自戒を含めてそれとは逆の“じゃない方”について触れたいと思います。



WBCが開幕する直前にある記事を見つけました。Z世代の若手社員が上司からの指示、会話で意味不明でわからないことが多い、というものでそれらの用語が列挙されていました。具体的には、一丁目一番地、ガッチャンコ、仁義を切って、えいや、いってこい、全員野球などほんの一部ですが、私にとって至ってフツーの言葉過ぎて、むしろ“Z世代”に目がゆき、Zってアルファベットの最後ですけどZの次は何世代？、と疑問に思ったところでした。敢えてここでは用語の解説はしませんが、私自身ほぼ100%意味がわかるもので、自分にとって当たり前過ぎる言葉が若手の人にとっては“わからない”ことについてショックを受けた同時に、自分もいよいよもってそれなりの歳になったなあ、と思わず失笑してしまいました。ここには書いていないものもありますが、傾向としては“野球”を使った例えが多いということでした。考えられる言葉として、言葉のキャッチボール、直球勝負、続投、ボールは誰がもっている？、アウト or セーフなどなどが推測されますが、改めて思うことは、これまで野球用語は職場だけではなく日常生活においてもかなり浸食していることということで、自分自身、無意識にしゃべってしまっているということです。

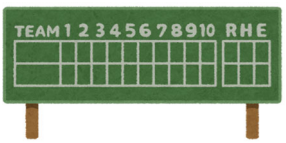




昔は“野球”はみんな知っており、最適な共通言語だったので、それに例えて業務上の指示などコミュニケーションをとることは送り手、受け手にとって非常にコスパがよかったのだと思います。一方で、令和においては野球を知らない人、WBCを観ていなかった人は少なからずいると思います。自分では当たり前と思っていることが、令和の時代においては当たり前ではないことが多々あると思いますので、適切に業務を遂行するために部下等に指示なりコミュニケーションをとる際はなるべく思い込みを排除し、相手の立場にたった“言葉”を選択するといった配慮も必要である、と改めて考えさせられた記事でもあり、自分の現在位置を教えてくれた直球ど真ん中の記事でした。

最後に、お題ですが、冒頭WBCに触れましたが、日本が前回優勝した 2009 年第 2 回WBC、決勝で不振に喘いでいたイ〇ローがタイムリーを打ち、最後はダルビ〇シュがえげつないスライダーで三振をとり宿敵〇国を破り優勝を決めたあの大会です。今大会同様、結果的には期待された役者が最終的には打ち、然るべき人が試合を閉めた劇的な大会でした。あの時、監査室で仕事をしており、十何年ぶりの優勝というフレーズに時の流れをしみじみ感じると同時に、時の歩みを受け入れ責任感を感じているところです。あれから十数年がたち“野球”も 2 番打者最強説、フライボール革命、二刀流、ビデオ判定など時代とともに制度、考え方なども変わって、新しい価値観を受け入れています。この先も同様だと思いますが、監査のあり方というものも同様に、時代に適応したやり方、考え方でなければならないと思いますので、昔からの手法に固執することなく、DX化など柔軟に対応していきたいと思います。

今年度はまだまだ始まったばかり、しまっていきましょう。
この一年間どうぞよろしくお願いします。



監査室　上原・由伸世代　N

最後までお読みいただきまして誠にありがとうございました。
引き続き、「おうでぃっとめーる」をどうぞよろしくお願い申し上げます。

バックナンバーは、監査室 WEB ページをご覧ください。

◆その他、各種お問い合わせは…

【電話でのお問い合わせ】

東北大学監査室

022-217-4874（監査室長：新沼）

022-217-5680，4880（佐々木、熊谷、齋藤、國分、目黒）

【メールでのお問い合わせ】

東北大学監査室

kansa@grp.tohoku.ac.jp

メールマガジンの一部または全部を無断転載することを禁止します。
© 2010 Audit Office Tohoku University